

女性の活躍促進WGにおける論点例

■政策・方針決定過程への女性の参画の促進

○「2020年30%」の目標を達成するため、実施すべきポジティブ・アクション


- ・「2020年30%」について、2015年(3次計画終了年)までの中間目標を設定するのか。設定するとしたらどのような数値か
- ・「女性の参画加速プログラム」における女性の活躍が期待されながら進んでいない分野(医師、研究者、公務員)のように、新たに重点的に取り組む分野としてどのような分野があるか
- ・それぞれの分野における女性の活躍を推進する上で有用なアプローチについて
(分野例:医療、科学技術、農業、メディア、学界、雇用、政治的・公的活動 ※女子差別撤廃条約勧告パラ28)
- ・企業における女性の参画が進むよう、企業に対してどのように働きかけることが有用か
- ・多くの分野において全体として参画している人の数は女性が多いのに比して、意思決定過程に女性が少ない社会的構造の転換を図る方策について

○女性の人材育成、能力開発・発揮の在り方

- ・様々な分野におけるネットワークの形成、継続をどのように行っていくか
- ・メンターの育成・支援をどのように行っていくか

○地域における女性の活躍促進

- ・NPO活動等の多様な社会的活動をキャリアとして積極的に評価し、新たな活動につなげていくための手法について
- ・社会的起業やNPO活動をどのように支援し、どのように協働していくべきか
- ・女性が地域における産業に参画することによる地域経済の活性化をどのようにアピールし、女性の参画を促進していけばよいか



■女性のライフコースに沿ったエンパワーメント

○全般

- ・各世代ごとにどのような支援ニーズがあるか。各世代を通じて総合的に支援していくためにはどのような体制が必要か
(例: キャリア形成支援、再チャレンジ支援、健康支援等)

○若年女性を対象とする施策

- ・若年期においてライフプランニングを考えるため、どのような支援が必要か
- ・若年世代の女性に固定的役割分担の考え方に賛成する割合が増えているが、どういった原因があるか
- ・子どもに対してどのような支援が必要か
(例: 性暴力、児童虐待への対応、キャリア教育、男女共同参画に関する理解、健康に関する理解)

○高齢女性を対象とする施策

- ・高齢女性の能力発揮をどのように拡大していくか
(例: 地域に根ざしたNPO活動、子育て・家事などのサポーター)

○多様な生き方・働き方を可能とする環境づくり

- ・労働者が性別により差別されることなく、意欲と能力に応じて働き続けることのできる雇用環境の整備をどのように図っていくか
- ・均衡処遇の確保、希望する者の非正規雇用から正規雇用への転換をどのように図っていくか
- ・在宅勤務等多様な働き方の普及をどのように図っていくか
- ・人生の各段階を通じて女性が希望に応じた就業をかなえられるようにどのような支援や仕組みづくりを行っていくべきか
- ・M字カーブの解消のためには、どのような支援策が必要か
- ・保育所の設置等の両立支援策
- ・女性の起業を支援するためには、どのような取組が必要か



■各WG共通論点

○風土の改革・気運の醸成、あらゆる年代層への広報・意識啓発と実践的取組

- ・若年層では男女で男女共同参画意識の傾向に差がみられるという現状もあるが、若年層への効果的なアプローチについて
- ・男女共同参画の問題について、メディアや幅広い主体との効果的な協働や、コミュニケーションの充実をどのように図っていくか
- ・これまで男女共同参画に関心が薄かった層にも分かりやすくメッセージを伝える方策について
- ・メディアが男女共同参画意識に与える影響について
- ・男女のための新しい社会変革という男女共同参画社会実現の意味を誤解なく伝え、新たな流れを作っていくための方策について

○国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、大学、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

- ・地方公共団体における推進体制の充実や関連施策の着実な推進をいかに進めていくべきか
- ・国と地方公共団体(特に市町村)との連携を進めるためにはどのような仕組みが有効か
- ・企業や政党といった多様な主体が、自ら男女共同参画に主体的に参画する仕組みをいかに進めるか
- ・NPO、地縁団体等が活躍できるような基盤をどのように作っていくか
- ・世代や地域や分野を超えてネットワークを形成し、連携協力していく方策について
- ・女性のライフコースに沿ったエンパワーメントに当たっての男女共同参画センター等の役割について